



激論！炎上座談会を読んで

本誌2月号の巻頭座談会「臨床家にとって経穴とは何か—WHOにおける経穴標準化をうけて—」は、見出し通り白熱した議論が展開され興味深く読むことができた。現在、標準化作業に携わっている一人として、篠原先生や戸ヶ崎先生のご意見は、臨床家の意見を反映しているものだと思う。しかし、日本（鍼灸）に終始していて、WHOが掲げるglobal medicineとしての東洋医学（鍼灸）という部分に言及されていないのは残念である。

合宿そして合宿

前回の「第二次日本経穴委員会便り」では、今春以降に発刊予定のWHO刊行物（つくば会議で決定した361穴の部位・図表などを含む）の忠実な日本語版（ドラフト）完成に向けての悪戦苦闘ぶりを紹介した。本原稿を書いている今現在もその苦闘から抜け出せていない。2月11、12日の本年2度目の合宿による作業、3月の作業部会を経て、3月31日の皆様への報告会に臨む次第である。

現在の作業～報告会に向けて

本便りが皆様のもとに届く頃にはほぼ作業は

終了していると思うが、現時点（2月）の作業は次の3つである。①WHO刊行物に記載される内容（英語標記）のチェック、②それと並行した日本語版の作成、③経穴図（①②に共通の）のチェックである。作業部会では、7人の委員が約50穴ずつを分担し作業を進めている。よって、作業上のルールを決め、それに基づいて委員が各自で作業を行い、その結果をメーリングリストにあげ原案を作成する。合宿や作業部会では、その原案をもとに全委員で確認作業を行うという手順を踏んでいる。思いのほか時間を要する地道な作業であるが、この時間を確保するために各委員は忙しい合間の時間を捻出している。

教科書との相違点

今回行われた経穴部位の標準化は、学校教育における基準作りにとって非常に重要である。2004年、本作業部会の設立後、最初の作業が経穴部位の日本案作成であった。これは、『標準経穴学』（日本経穴委員会編）、『経絡経穴概論』（東洋療法学校協会編）、『基礎理療学Ⅱ（経絡経穴概論）』（盲学校理療科用図書編纂委員会編）をもとに作成された。国際標準化がなされた現在、実際にどのように変わったのかを少しまとめてみる。詳細は、最

後に記した報告会をはじめ、随時本誌や学術雑誌などに掲載していくこととなる。

今回は、誌面の都合上、WHOによる標準経穴部位と東洋療法学校協会の教科書である『経絡経穴概論』との相違概要を列記する。

相違経穴についてはいくつかの区分けができ、①2案併記；口禾膠、迎香、勞宮、中衝、環跳、水溝、②奇穴から新たに正穴となるもの；眉衝、督兪、氣海兪、関元兪、風市、急脈、中樞、③骨度変更に伴う変更；前腕長10寸→12寸に伴う；孔最、支正、郄門、四瀆、大腿後側長14寸に伴う；殷門は殿溝の下6寸、④上記①～③以外で魚際、犢鼻、天窗、合陽は、教科書では別説として採用されているもので、その他、天府、侠白、列缺、合谷、扶突、解谿、府舎、腹結、大横、腹哀、晴明、秩辺、京骨、日月、陽交、外丘、期門などが部位変更穴となる。

教科書では別説である部位が標準経穴部位となったのは、魚際：「第1中手骨桡側の中央で赤白肉際」、犢鼻：「膝蓋靭帯の外縁陥凹部」、天窗：「胸鎖乳突筋の後縁」、合陽：「教科書では別説とされている膝窩横紋の下2寸」である。

その他の部位変更穴については、天府・侠白：「上腕二頭筋の筋溝→上腕二頭筋の桡側縁」、列缺：「動脈拍動部のやや桡側→短母指伸筋腱と長母指外転筋腱の間」、合谷：「第1・2中手骨底間の下→第2中手骨の桡側中点」、扶突：「胸鎖乳突筋の前縁筋中→胸鎖乳突筋の中央」、解谿：「前脛骨筋腱の外側陥凹部→長母指伸筋腱と長指伸筋腱の間」、大横：「臍の外3.5寸→4寸」に伴い、その上下に位置する府舎、腹結、腹哀も変更された。晴明：「内眼角の内1分、鼻根との間→内眼角の内上方、眼窩内側壁の間の陥凹部」、秩辺：「教科書の別説に近いが、第4後仙骨孔の高さで、正中仙骨稜の外方3寸」、京骨：「第5中足骨粗面の後下際→第5中足骨

粗面の前下方」、日月：「第9肋軟骨付着部の下際→第7肋間隙中、前正中線の外方4寸」、陽交：「腓骨前縁→腓骨後方」、外丘：「陽交の後方で長腓骨筋とヒラメ筋の間→腓骨前方」、期門：「第9肋軟骨付着部の下際→第6肋間隙中、前正中線の外方4寸」となった。また、部位変更には含まれないが名称（漢字）変更もある（飛陽→飛揚、客主人→上関、足陽関→膝陽関）。なお、部位変更の経穴数については、今後の詳細な確認作業でさらに増える可能性もある。

報告会の開催について

上記の詳細な内容については、下記の様に報告会「標準化経穴部位と今後の動きについて」を開催して説明する。関係団体にはすでに連絡済みだが、個人的に興味のある方は、資料準備等の関係から、予め人数を把握する必要があり、事前申し込みをお願いしたい。

日時：2007年3月31日（土）午後2時～5時

場所（予定）：筑波大学学校教育部G館（東京都文京区茗荷谷、旧東京教育大学跡地）（160席）

申込先：明治鍼灸大学 篠原昭二宛

E-mail：s_shinohara@meiji-u.ac.jp

FAX：0771-72-0326

件名：「WHO標準経穴部位報告会」参加申し込み

申込内容：参加者氏名、所属、連絡先、E-mailまたはFAX番号、関係（経穴学教育担当者・経穴の研究者・臨床家・その他）を明示の上、2007年3月13日（火）までにお申し込み下さい。

（大阪府泉南郡熊取町苜葉2-11-1 関西鍼灸大学）